



皆様のお祈り
心から感謝いたします

3.11東日本大震災
災害対策本部 活動報告

2011.3.11~10.11

日本バプテスト連盟

災害対策本部

活動理念

◆ “和解のつとめに仕える”

神と人、人と人、人と全被造物における和解、福音における新しい交わりの創造に仕えていく。

◆被災地の痛み、悲しみ、苦悩のただ中に働いておられる十字架のキリストに目を注ぎつつ、被災地

の人々と尊重し合い、学び合う関係を大切にし、復活の命と希望を分かち合っていく。



活動方針

(ア) 「被災地にある教会」に連帯して立つ。

- ① 被災地にある教会の痛み、喜び、労苦を共有していく。祈りあい、支えあう。
- ② 教会が元気に宣教の働きに立てられていくための支援をする。
- ③ 災害から問われている課題を学び合う。

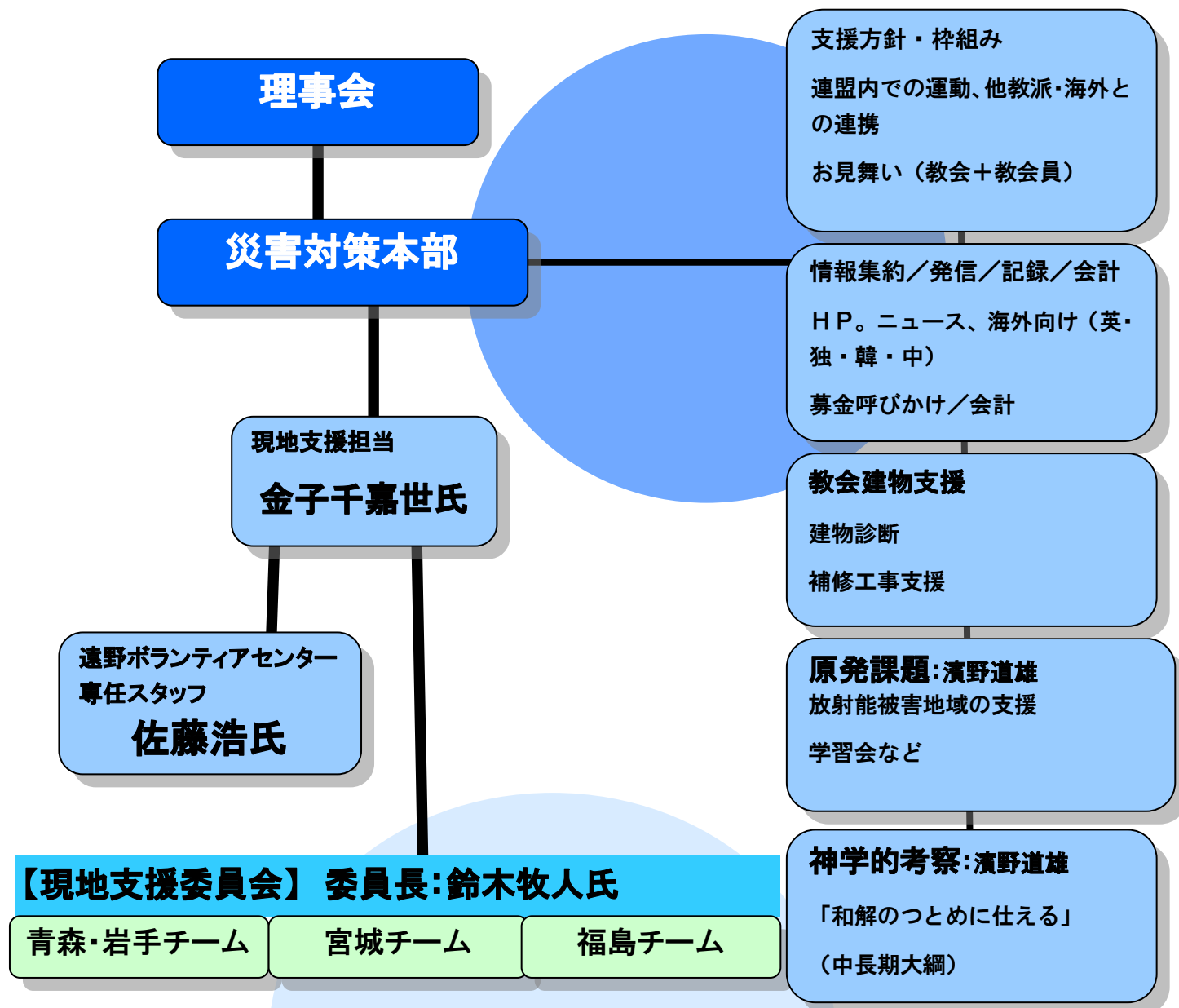
(イ) 「被災地にある教会を通して地域」を支援する。

被災地にある教会が、地域において「和解のつとめに仕える」(被災の痛みを分かち合い、心に寄り添いながら、新しい関係を紡いでいく)関わりや働きを支援する。

(ウ) 「地域」を直接支援する。

- ① これまで連盟として関わりを持てずにきた三陸沿岸部、そこに住む人々との関わりを大切にしつつ、キリスト者としてないうる支援をする。
- ② 原発災害で目に見えない重荷を背負い歩んでいる人々に連帯し、特に子どもたちの命を支える。
- ③ 預言者的使命を自覚し、政府や自治体、世界に発言していく。

災害対策本部：組織図



・「被災地にある教会」に連帯して立つ



- ① 被災地にある教会の痛み、喜び、労苦を共有していく。祈りあい、支えあう。
- ② 教会が元気に宣教の働きに立てられていくための支援をする。
- ③ 災害から問われている課題を学び合う。

・「被災地にある教会を通して地域」を支援する



・瓦礫撤去



・仮設住宅での炊き出し



・救援支援物資を届ける



・手もみサービス



・放射能飛散被害から避難してきた子供たちの受け入れ

・「地域」を直接支援する



遠野ボランティアセンター

- ・ 三陸沿岸部への関わり活動拠点
- ・ 連盟諸教会のボランティア受け入れ
- ・ 神学生や青少年にとっての貴重な経験と学びの場



なごみカフェ(移動カフェ)

仮設住宅との関わりを継続して、交わりや傾聴の機会をつくり出す。そして、被災地の出来事やストーリーに接することを通して、私たちの信仰が主にあって新しくされていくことを願って運行する。また、ひいては私たちキリスト者の働きや存在が、被災地をはじめとした地域で微笑ましく受け入れられていくことを目指す。

・海外との協働



震災発生直後（24時間以内）に

ハンガリーから救援チーム（BWAid）が到着。

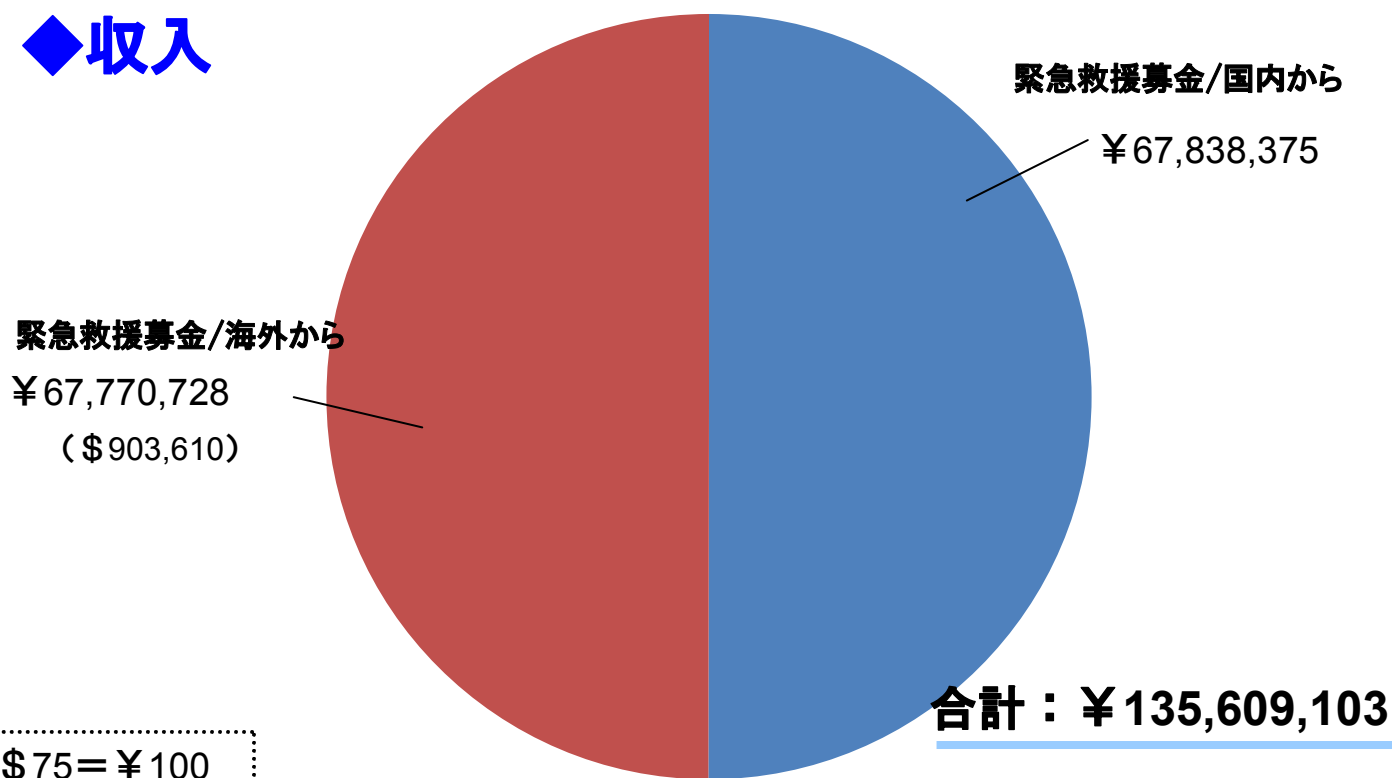
その後も数回にわたり支援活動を行っている。

世界バプテスト復興支援会議

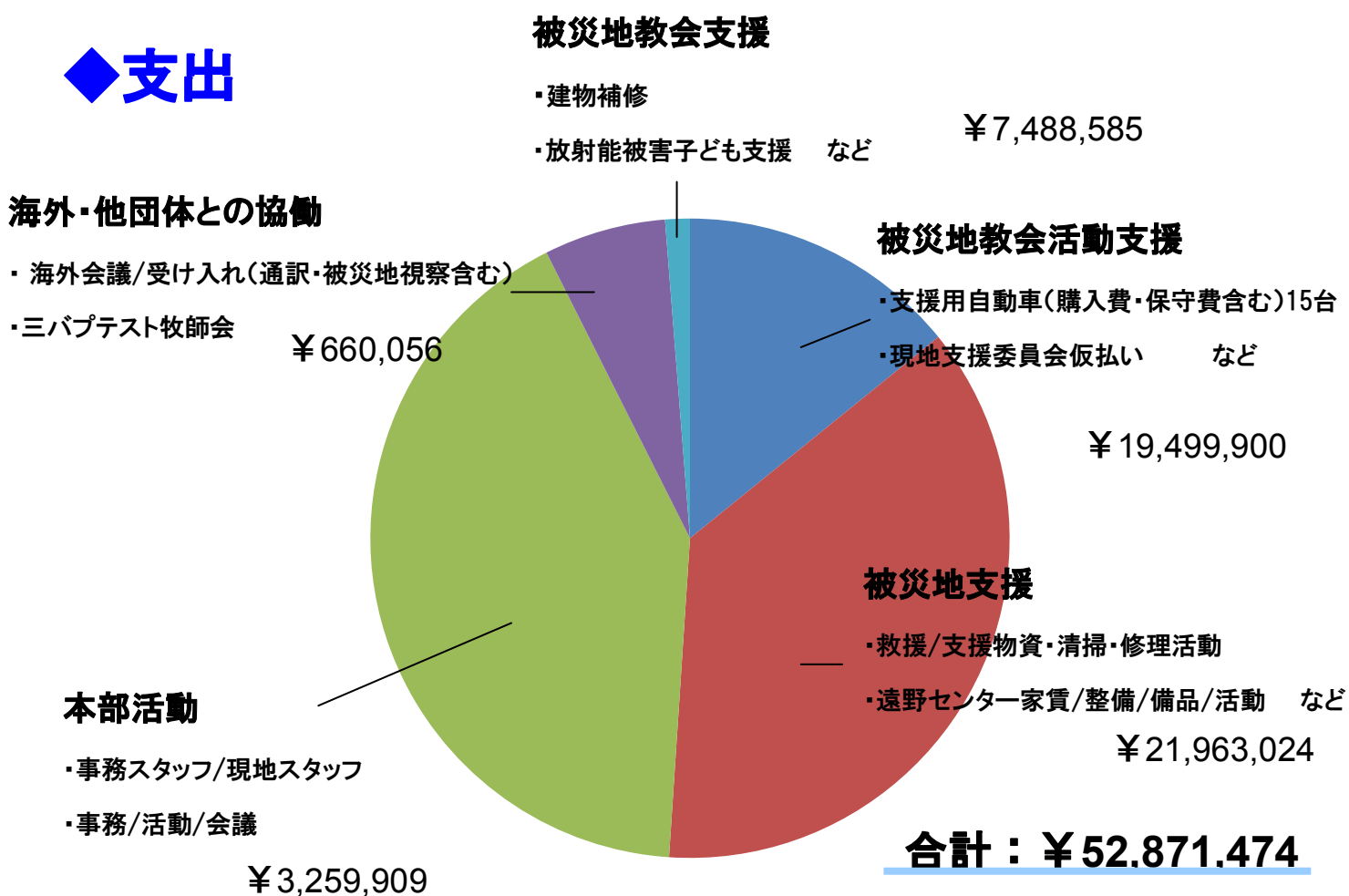
復興支援会議のために、海外のバプテスト連盟の方がたが集いました。



◆収入



◆支出



祈りの課題

- ▼冬の季節、様々に「引き裂かれ」痛んでいる被災地・仮設住宅のお一人おひとりの上に、主ご自身の慰めと癒しがありますように。
- ▼教会の支援活動が聖霊の働きの下で「和解のつとめに仕える」奉仕として整えられ用いられますように。
- ▼東京電力福島第一原発事故の放射能飛散によって痛み続けている福島の人々のために。
- ▼連盟遠野ボランティアセンター専任スタッフの佐藤浩氏の働きと健康が支えられ、被災地や仮設住宅の方々との息の長い関わりを持っていくことができますように。

感謝



奥村 敏夫

災害対策本部長

日本バプテスト連盟 理事長

札幌バプテスト教会 牧師

主の尊き御名を讃美いたします。

この度「東日本大震災」が発生して以来、私どもは非力ですが、全国の諸教会・伝道所、他の諸教派とも協力して災害の救援と復興に取り組んで来ました。被害尾大きさに比べて、私たちができる事は誠に小さな事ですが、そんな私たちの大きな励ましと支えとなりましたのは、海外におられる同信の友からの祈りと尊い献げものでした。想像を超えた多額の支援金や心のこもった物資、そして人材をお送りくださり、私たちは‘主よりの助け’と感謝し、励まされました。この与えられた慰めをもって、今度は私たちがこれからも続く苦しみにも耐えておられる方々を慰め支え続けていきたいと思っています。どうぞ引き続きお祈りの内に加えて下さいますように。ご支援下さった事をここに改めてお礼を申し上げます。

主にあって、皆様の働きが豊かに祝福されますように。

在主 2011年12月